

優良農家の紹介

閉鎖型育苗システム「苗テラス」で効率苗生産

たつの市揖保川町で施設トマトを生産する竹田陽一郎さん（以下竹田農園）は、水耕栽培（NFT耕）で生産したトマトをほぼ全量、直売で販売している。

本年、栽培施設を6,000㎡へ規模拡大を図り、同時に人工光・閉鎖型育苗システム「苗テラス」を導入した。「苗テラス」とは、閉鎖した空間で光・施肥・温度条件をコントロールして揃った苗を生産することができる装置である。

竹田農園では、現在、播種から25日で定植苗に仕上げられており、4月から6ヶ月間で計8回、26,000本の苗を生産している。

1 「苗テラス」による育苗の利点

- ①育苗労力・精神的負担が大幅に軽減：顧客の要求に応じてトマトを周年供給している。「苗テラス」は、どの時期でも苗生産が可能で、育苗の管理労力を本圃管理に回すことができるようになった。
- ②育苗の計画生産が可能：気象条件に左右され、育苗日数が一定でなかった育苗が「苗テラス」で一定となり、本圃の回転率が向上するだけでなく、計画的な生産と労力配分ができる。
- ③病虫害リスクの少ない良苗生産：「苗テラス」は閉鎖型システムで病虫害の侵入が非常に少ない条件を作ることができる。育苗時期の病虫害被害は、甚大な被害につながるため、「苗テラ

ス」のような病虫害リスクの少ない方法は、防除回数を軽減できる。また、苗が生育しやすい温度条件のため、がっしりしたよい苗を周年作ることができ、体質的に健全なトマトを定植できる。

2 「苗テラス」による育苗の課題

今回、約6,000㎡の施設面積に対して標準型の5坪6棚仕様を用いた。その導入コストは約700万円である。大規模になれば、育苗用スペースも大きく、その施設コストと比較すると割安といえるが、誰にでも導入できるものではない。ランニングコストを算出した結果、苗1本当たり38～39円（減価償却費含む）で購入苗より低コストに抑えられた。設備全体に更なる低コスト仕様の開発が望まれる。

3 その他

竹田農園では、制度資金を利用し、規模拡大と同時に「苗テラス」の導入と個人直売施設の建設を行った。この新しい直売施設は、従来の作業場に比べて顧客への配慮を十分考え、快適な環境で購買できるよう、断熱材を入れた壁、自動ドア、トイレ・高い天井など、より買いやすい、見やすい直売施設となっている。

岡本直樹（龍野農業改良普及センター）



図1 「苗テラス」で育苗中のトマトの苗



図2 「苗テラス」の内部

ひょうごの農林水産技術 No.144

平成18年3月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

1部250円（申込先・県立農林水産技術総合センター）